



対談

過ちを犯した人を受け入れ立ち直りの機会を提供する
共生・共感・共助の社会へ



玄秀盛さん

堀田力さん

失敗を許さない社会ほど、窮屈な社会はないだろう。
やり直そうとする人が、世の中に受け入れられないことで
再び道を踏み外す悪循環に陥らないようにするためには、
私たちが偏見のない目で人を見ることができかどうかにかかっている。
新宿・歌舞伎町で悩みや苦しみを抱えて駆け込んできた人々を救い、
立ち直りをサポートする活動に全力を傾けている玄秀盛さんに
人間として惚れ込んだという堀田力会長がお話をうかがった。

歌舞伎町を舞台に始動する
出所者支援居酒屋プロジェクト

堀田 今日には玄さんがいま、いちばん熱心に取り組んでいる刑余者、いわゆる出所者の方々に居酒屋で働いてもらう「出所者支援居酒屋プロジェクト」を中心にお話を聞きたいと思ってきました。よろしくお祈りします。

玄 こちらこそお招きいただき、ありがとうございます。

堀田 刑期を終えて出所してきた方々が世の中に受け入れてもらえず、なかなか就職できないのが現状です。そのため、せっかく真面目に働こうとする意志がありながら、再び崩れていってしまう。それは悔しいことです。

玄 このままでは、そういう人がますます多くなる。これは新宿の歌舞伎町でやっている「日本駆け込み寺」の活動を通じて痛感することです。そこではドメスティックバイオレンス（DV）やストーカーの被害者などを救うことをメインに活動していますが、その加害者の立場にあった人たちを含め、出所者をこのまま放っておけば、結果的に被害者が尽きることはありません。

堀田 生まれつき加害者で、死ぬまで加害者という人はいない。僕も検事時代に、本当にこんなことを同じ人間がやったのかと思うような悲惨な事件をたくさん見てきたが、その加害者のなかには、本当に深く反省し、真人間に

戻ろうと、アツと思うように心を入れかえる人もいます。すると、世の中にこれほど美しい心の持ち主がいたのかと思うほど立ち直る。しかし、それを世の中が認めない。そうした方々に少しでも立ち直る機会を提供しようと、いま玄さんは一生懸命に取り組んでいる。

玄 これまで企業の方々にお会いして、なんとか雇用してもらえないかとお願いしてきたが、会社のイメージダウンになるということで、はかばかしい反応を得られなかった。しかし、やっと出所者居酒屋に興味を持ってくださる企業主が現れて具体的な形が見えてきた。これからどう展開しようかと日々、ワクワクしながらやっています。

堀田 僕もいま、障がい者の支援に取り組んでいるけれど、やっと世間の目が「一緒に考えていきましょう」という機運になりつつある。身体的障がい者のなかでも特に大変だなと思うのは、耳が聴こえない方々。パッと見ただけでは、聴覚に障がいがあるということがわからない。それで、「こんなこともわからないのか」という目で見られてしまう。それは、その人の事情がわからないゆえの偏見だけれども、周囲が環境を整えてあげれば、きちんと社会生活をおくることができる。これは刑余者や出所者であっても同じこと。玄さんは、その仕組みづくりをやるとうしている。しかも、それを隠さずに、すべて

オープンにしてやろうというのだから素晴らしい。

玄 現実には、そういう人たちがいるということから始めないとダメだと思います。それを見ないふりをして、社会的に排除しようとするから、出所者がいつまでたっても日陰に追いやられてしまう。そこをあえて歌舞伎町で出所者による居酒屋をやることで、マスコミも取り上げるだろうし、世間的に注目も集まる。当然、そこには責任も自覚も求められるが、そうすることでひとつの起爆剤になればいい。

裸の人間として人を見て判断することができるか？

堀田 僕はいま、東日本大震災の被災地で絆の回復を念頭に置きながら、自宅で最期まで過ごせるような町づくりのお手伝いをしようと、仲間ボランティアたちとともに取り組んでいる。ある地域で、「私がやります」と手を挙げてくれた50歳くらいの男性がいた。とても熱心に活動してくれるので、「あなたが中心になってやってください」と頼んだが、地元の人に聞いたら、「あの人はヤクザの親分だ」という。そこで僕が直接その人にたずねたら、「被災を機にヤクザはやめました」ということだった。それが嘘をついているとは全く思えない。僕は彼の言葉を信じた。こういう人たちがその気になったら、す

玄秀盛（げん・ひでもり）

1956年生まれ、大阪府出身。中学卒業後、自動車修理工を皮切りに、28業種に及ぶさまざまな職業を経験した後、建設、不動産、金融、調査業など10社余りを起業する。2000年に献血した際、白血病を引き起こすウイルスの保菌者であることが判明したのを機に、人生を180度転換。2002年、NPO法人日本ソーシャル・マイノリティ協会を設立（後、新宿救護センター、歌舞伎町駆け込み寺に改組）。2012年11月から公益社団法人日本駆け込み寺として活動を継続している。

堀田力（ほった・つとむ）

1934年生まれ、京都府出身。弁護士、さわやか福祉財団会長。京都大学法学部卒業後、61年に検事任官。大阪地検・東京地検特捜部検事、法務大臣官房長などを歴任し、91年に退官。同年、さわやか福祉推進センター開設95年、現財団に改組。2010年、公益法人化。「新しいふれあい社会の創造」を掲げ、ボランティア育成などに積極的に取り組むほか、福祉・教育・社会保障分野の団体や組織で理事や委員などを務めている。10年11月に全日本社会貢献団体機構の会長に就任。

ごい馬力を発揮する。その活動ぶりを見て、地元の人たちも彼を信用して認めている。

玄 やはり親分をしていくくらいの人には説得力や実行力、人望のようなものがある。ヤクザを持ち上げるわけではないが、それは事実。

堀田 それが、その人の裸の人間性なのだと思う。世の中の人も、裸の人間としてその人を見て判断しなくてはならない。経歴や前科などに縛られるのではなく、いまやっていることを虚心に見て、それで信用できるとしたら普通に付きあっていけばいい。

玄 改心して真面目にやっても、ちょっと噂が流れただけで、「あの人は昔……」と叩かれ、職場や家庭、社会に居場所がなくなる。失礼な言い方かもしれませんが、それなら刑務所に入っているほうが楽だということになって、再犯を繰り返すことになりかねない。そこまでいかないまでも、結局、就労させてもらえないために生活資金を得られず、生活保護を受けている人がかなりいる。どちらにしても相当の税金が投入されているわけで、そういう人たちがきちんと働ける場所があれば、逆に税金を支払う立場になってもらうこともできる。この違いは、相当大きい。

堀田 障がい者支援については少しずつよくなっているけれど、残されているのが刑余者、出所者への差別や偏見の問題。そのためにも、玄さんの取り組みは是非、成功してほしい。繰り返すようだけど、大事なことは、予見や偏見を持たずにその人をストレートに見て、できることをやってもらうということ。それによって、その人たちも自分の能力を発揮できるし、自分が人の役に立つことができるとわかれば、き



と楽しいはず。そういうふうには、障がいを持った人も、過ちを犯したけれど罪を償った人も、すべて受け入れる社会にしていきたい。

玄 いまの世の中で最も受け入れられていないのが出所者。あくまで一般的な話ですが、ニートや引きこもり、あるいはDVやストーカーの加害者というのは、まだ戻れるルールがあるという気がします。しかし、出所者のなか

には、はなから脱線した人がいて、そういう人は放っておくと、脱線の程度がどんどんひどくなる可能性がある。かといって、いきなり正常なルールに乗せるのがいいかというそうではなく、まずはそれ以上脱線しないように保つことで、ルールから「逸れていくエネルギー」を「戻るエネルギー」に変えていくことができる。

堀田 そうしたことができるのは玄さ



んくらいしかいないと思うし、その居酒屋プロジェクトがうまくいったら、これまで駆け込み寺を支援してくれたり、協力してくれたりした人たちは随分とうれしい気分になる。しかも、その矯正や生活保護のために税金を投入するよりも、それは何十倍も何百倍も効率的なこと。出所しても、社会に受け入れてもらえないために、また戻ってくるという悪循環をなんとか断たなくて

はいけない。

玄 きっと世間の人のなかにも、そういう人たちの生の話を聞きたいと思う人もいると思う。

堀田 かつて、安部譲二さんの『扉の中の懲りない面々』が話題になったのも、そういう欲求があるからでしょう。話をしたいと思っている人もいっぱいいると思う。出所者支援居酒屋の第一弾は歌舞伎町だけど、全国の主だっ

た繁華街に、そういうお店が広がっていくといいね。

玄 雇用形態としては、3カ月～半年くらい働いてもらい、その間にハローワーク的なこともできたらいいと考えています。理容や調理などの技能を持ち、そうした店で働きたいという人もいます。そういう人には、とりあえずこの居酒屋で働くことで、ここをステップアップの最初の足がかりにしてもらい、その後、自分の進みたい方向に行ってもらえればいい。自分としては、なんとかそこまではやりたい。そこで道筋ができたなら、その後は企業などにも協力してもらい、出所者を受け入れてもらいたい。「思えば叶う」ではないが、あとは実現に向けて行動するだけだから、実に楽しい。

たった一人を救うことで世の中が平らになっていく

堀田 玄さんが日本駆け込み寺を始めて、もうどのくらいになりますか？

玄 NPO法人の「日本ソーシャル・マイノリティ協会」時代からだ、12年になります。その間、ゆうに3万件を超える相談を受け、解決してきました。その多くは、家庭内暴力、DV、ストーカー、金銭トラブル、いじめなどの被害者、あるいは引きこもり、ニートなどで困っているという人たちからの相談です。まさに被害者が逃げ込む場所で、そうした人々を上手に守りながら、我々が窓口として加害者側と対峙しつつ、問題を解決に導いていきます。

堀田 その駆け込み寺の活動にしる、今回の出所者支援の活動にしる、玄さんのところは、どんなことをモットーとしているの？

玄 「目の前の、たった一人を救う」ということです。どんな問題であろうと、





被害者であろうと加害者であろうと、悩み苦しむ人は分け隔てなく受け入れ、一対一で向き合い、その人を救うために手を尽くす。そこに徹底的にこだわることで、一人ひとりを生かしていきたいと思っています。

堀田 あなたは本当にいろいろな協力を巻き込んで活動している。みんな、あなたに惚れている人ばかり。僕はかつての検事仲間や法律家仲間、あるいはさまざまな行政官といった人たちと会う機会が多いけれど、そのなかで玄さんを知っている人は、全部イヤつ、知らない人はアカンやつ。リトマス試験紙ではないけれど、それで人を見分けている(笑)。

玄 おかげさまで、堀田先生ともご縁をいただいて、おとしには対談集も出ささせていただきました(集英社新書『エリート×アウトロー 世直し対談』)。地方で行われる小さな座談会などに行っても、「堀田先生とは、どういうご関係ですか?」と聞かれることも多い。

堀田 本当に燃えているというか、充実しているという感じが伝わってくる。玄さんは献血をした際に、白血病の原因となるHTLV-1というウイルスの感染者であることがわかって、そこから

がらりと生き方を変えたわけだけれど、最近、体の調子はどうなの?

玄 絶好調です。

堀田 玄さんは、僕なんか絶対やれないことをやっている。これだけの能力を持った人にはなかなか出会えない。

玄 いろいろな方々に支援していただきながら、なんとか12年間やってることができました。

堀田 社会貢献だとか、ボランティアだとかいうと、何か特別なことをして人を救わなければならないという話になりがちだけれど、そうではない。パチンコ・パチスロ業界もお金を出して困っている人々を支援したり、世の中の役に立つようなことをしているが、それはそれで大切なこと。でも、できれば、なかなか社会的に受け入れてもらえないような人々を雇用してくれれば、それはもっと素晴らしいことだと思う。

玄 とにかく関心を持ってもらうことが、いちばん大事なことだと思っています。意外とみなさん、私たちには関係のないことというか、無関心。そうやってトカゲのしっぽ切りみたいなことをやっている。出所者の就労の問題を解決しないことには、世の中から悲しみはなくならないと、ここ4、5年で思う

ようになりました。一人の加害者が気づけば、三人の被害者を救えるという気がする。それは相手と、その親族と、加害者自身という被害者。

堀田 一度失敗したら、それでダメという世の中になってしまっているのも問題。失敗した人々をそういう目で見るから、ますます追い込んでしまうという構図になっている。でも、失敗した人々の中にも、能力のある人たちはいっぱいいる。そうした人々が、玄さんの居酒屋を経由して、普通に就職できるような世の中になってほしい。

玄 そうやって社会復帰する人たちが増えていけばいくほど、世の中がどんどん平らになっていくと思います。

堀田 おっしゃる通り。今日はありがとうございました。これからも、がんばってください。

公益社団法人 **日本駆け込み寺**
 たった一人のあなたを救う!
 家庭内暴力・DV・金銭トラブル・自殺・借金・ストーカー・いじめ・引きこもり
 東京都新宿区歌舞伎町2-42-3 林ビル1F
 TEL.03-5291-5720 FAX.03-5272-2401
 http://nippon-kakekomidera.jp/